

全国闘牛サミット闘牛大会開催



うるま市合併10周年記念事業「全国闘牛サミット闘牛大会」が5月9日、石川多目的ドームで開催されました。闘牛文化を有する全国各地域からの代表牛が参加し、熱気あふれる取り組みが行われました。

激しく巨体をおつけあう牛の迫力や、勢子(せこ)とよばれる牛を操る闘牛士たちの気合のこもった掛け声に、会場では闘牛ファンの歓声が響いていました。

また、5月8日、10日の3日間、闘牛写真展が石川舞天館で併せて開催され、過去の取り組みの写真や動画のほか、オリジナルの闘牛タオル等が展示され、多くの来場者で賑わいました。



【勝利のガッツポーズ】



【闘牛写真展の様子】

翌日の5月10日には、闘牛文化を有する全国6県から、「闘牛」を開催している9市町の関係者が一堂に集い、「第18回国闘牛サミット協議会」が、うるま市石川保険相談センターで開催されました。

同協議会において「闘牛文化を次世代へ継承するとともに、闘牛の魅力を広く発信し、伝統資源を活かした地域活性化を積極的に進める」などのサミット宣言が行われました。

闘牛のワザ

押し



正面から渾身の力を込めて直線的に相手を押すこと。押しだけで勝負が決まることは希であり、体勢を崩した後続く腹取りでの決着が多い。

ワリ、ツキ



相手の眉間めがけて角を打ち込むこと。体重が乗った強烈な技が決まった場合は、かなりと威力となり、間をおかず相手に敗走させることができる。

カケ



角を掛けて相手の首をまげること。もっともよくでる技であり、相手の首が90度近くも回転し天井を向いたままになることもある。

腹取り



相手の隙を狙い横腹を一気に襲う技。この技を得意とするのは、敏捷で体全体にバネがあり瞬発力豊かなタイプで花形牛となることが多い。

持たせ込み



相手に体重をかける技。相手の押し込みや掛けを避けるため防御目的にやることが多い。